

第7回 江戸川大学簿記コンクール【 問題 】

第1問 (30点)

次の取引について仕訳しなさい。ただし勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現	金	普	通	預	金	当	座	預	金	受	取	手	形
売	掛	金	売	買	目	的	有	価	証	券	前	払	金
建		物	備		品	車	両	運	搬	俱	支	払	手
買	掛	金	商	品	券	前	受	金			未	払	金
当	座	借	越	貸	倒	引	当	金	減	価	償	却	累
有	価	証	券	利	息	受	取	配	当	金	有	価	証
仕		入	租	税	公	課	発	送	費		貸	倒	損
減	価	償	却	費	支	払	利	息	有	価	証	券	売
													却
													損

1. 神奈川商店へ商品 400,000 円を販売し、代金のうち 40,000 円は注文を受けたさいの手付金と相殺し、200,000 円は同店振出、当店宛の約束手形で、70,000 円はかねて当店が振り出していた茨城商店宛の約束手形で受け取り、残りは掛けとした。
2. 平成×6年6月30日に、備品を240,000円で売却し、代金は小切手で受け取った。この備品（平成×1年7月1日に800,000円で取得）の減価償却は定額法（耐用年数6年、残存価額は取得価額の10%）、記帳方法は間接法によっている。当店の決算日は3月31日の年1回であり、取得年度と当期の償却額は月割計算するものとする。
3. 当店が保有している函館商店発行の商品券315,000円と、函館商店の保有している当店発行の商品券505,000円を交換し、差額を現金で精算した。
4. 宮崎商店より商品830,000円を仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。なお、当店は取引銀行と当座借越契約（限度額500,000円）を結んでおり、小切手振出時における当座預金口座残高は550,000円であった。
5. 本日、保有している東北商事株式会社社債の利札2,000円の支払期日が到来した。

第2問 (18点)

平成24年5月における商品売買に関する下記の資料にもとづいて、(1)商品有高帳の記入、(2)総勘定元帳の売上勘定および仕入勘定の記入、(3)5月中の売上総利益の計算を示しなさい。総勘定元帳には日付と相手勘定も記入すること。なお、月末における帳簿の締め切りを行う必要はない。また、商品の払出単価の算定方法は移動平均法による。

売 上 帳

(単位：円)

平成24年		摘 要		金 額
5	15	茨城商店	小切手	24,000
		ボールペン	120本 @200円	
	29	東京商店	掛	32,000
		ボールペン	160本 @200円	

仕 入 帳

(単位：円)

平成 24 年		摘 要	金 額
5	12	山梨商店 掛 ボールペン 160 本 @110 円	17,600
	26	山梨商店 小切手 ボールペン 160 本 @114 円	18,240

第 3 問 (10 点)

次の伝票の空欄①～⑩に記入される勘定科目または金額を答案用紙に答えなさい。

1. 仕入先を買掛金 2,000 円を現金で支払った際に、出金伝票に次のように記入を行っていた。後日、この伝票の誤りに気付いたため、これを訂正するための振替伝票を完成しなさい。

出 金 伝 票		振 替 伝 票			
科 目	金 額	科 目	金 額	科 目	金 額
仕 入	2,000	(①)	2,000	(②)	2,000

2. 商品 3,000 円を売上げ、代金は 1,000 を現金で受け取り、残額は掛けとした際に、次のように入金伝票に記入した場合の振替伝票を完成しなさい。

入 金 伝 票		振 替 伝 票			
科 目	金 額	科 目	金 額	科 目	金 額
売 掛 金	1,000	(③)	(④)	(⑤)	(⑥)

3. 商品 6,000 円を仕入れ、代金は 5,000 円を現金で支払い、残額は掛けとした際に、次のように出金伝票に記入した場合の振替伝票を完成しなさい。

出 金 伝 票		振 替 伝 票			
科 目	金 額	科 目	金 額	科 目	金 額
仕 入	5,000	(⑦)	(⑧)	(⑨)	(⑩)

第 4 問 (22 点)

以下に示した決算修正事項について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、【答案用紙】第 5 問の精算表で記載されているものを使用すること。なお、会計期間は 1 年、決算日は毎期 3 月 31 日とする。

<決算修正事項>

1. 得意先広島商店からの当座預金口座への振込額は、受取手形の回収にかかわるものであったが、売掛金の入金として誤って処理されていることが判明し、決算において修正した。
2. 前受金は得意先広島商店より受け取った内金であり、これにかかわる商品の引渡はすでに完了していたが未記帳であることが判明した。
3. 店主が、私用のため商品 40,000 円を消費していたが未記帳となっている。
4. 引出金について、資本金に振替える。
5. 受取手形と売掛金の期末残高に対して、実績率 4 %を用いて貸倒引当金を差額補充法により設定す

る。

6. 消耗品の期末未消費残高は 1,200 円である。
7. 有価証券はすべて売買目的により取得したもので、時価の 111,000 円に評価替えする。
8. 期首商品棚卸高は 126,000 円である。なお、売上原価は仕入の行で計算する。
9. 固定資産については、ともに残存価額は取得原価の 10%の定額法により減価償却を行う。
耐用年数 建 物： ? 年 備 品： 5 年
10. 保険料は当期首に加入し、向こう 2 年分を一括払いして支払ったものである。
11. 支払家賃は 10 ヶ月分で 2 か月分が未払いとなっている。

第 5 問 (20 点)

第 4 問の決算修正事項の仕訳にもとづいて精算表を完成しなさい。